



第3回 和僑アジア大会 in 上海

日本人起業家300人が集結

中 国人たちが、「華僑」として海外でのビジネスネットワークを広げ活躍する姿に学ぼうと、2004年に香港で発足した「和僑会」。ここ数年で、日本国内では北は北海道から南は沖縄までの数カ所、中国国内では上海・深圳・北京・広州など、その他、タイ・シンガポール・インドネシアにも拠点ができた。この度、私は上海和僑会の名譽会員に就任させていただき、「第3回 和僑アジア大会 in 上海」に出席した。



藤岡久士会長(写真右)から岩田弘志代表理事に和僑旗が受け継がれた

前日の11月25日のパーティーから出席。会場となったJADE LINK HOTELに一步足を踏み入れると、すべてが日本人でそこらじゅうに日本語が飛び交っていた。しかし、日常は中国語を駆使し、経済発展著しい競争社会の大都市・上海で活躍する起業家たちだ。また、これから活躍しようという起業家の卵や、企業のトップクラスもいた。日中には「和僑総会」があり、今後について激しい議論があったようだが、パーティーでは終始にこやか。食事よりも名刺交換と交流で3時間が過ぎた。

当日の11月26日、300人の和僑が集う中、上海和僑会・藤岡久士会長の挨拶で始まった。「信じています。ここに集まった皆様と世界でつながり、ビジネスとなり広がっていくことを」との言葉に、会場がまたたいた空気に包まれた。続いて創始者でもある和僑総会・簡井修会長の挨拶は、参加者に改めて会の意義を考えさせるものだった。「和僑会に入ったらメリットがありますか?」とよく聞かれるという。「メリットもない、情報もくれない」と答えるという簡井会長。「皆様自身がチャンスをつかむ! という気持ちじゃないと無理。そういう人でなければ、あえて入会してほしくない」とき



写真・文 上海観光親善大使
本堂亜紀 (ほんどう・あき)
profile
カメラマン・モデル、講演及び執筆活動でマルチに活動。2003年、上海市観光局から上海観光親善大使に任命される。上海写真展・トークショー・ツアーなど多数実施。中国国際航空イメージガールとして活動(2007~2011年)。上海万博海外推進室 日本事務所 広報部 女性自立の会(FILLE フィューユ)主宰 ブログ好評「本堂亜紀的輝く女性になるために」
<http://akihondo.blog.so-net.ne.jp/>



藤岡久士会長の挨拶に300人の和僑が耳を傾ける



「来年のアジア大会に参加する人～」の声に全員の手が挙がる盛り上がり

つばり。三つの理念、①和を以て貴しとなす。思いやりに持つて人に接する②共存共栄、相互扶助③地域社会への貢献に感じて、人に対して思いやりを持つていこうよ! 「俺が俺が」ではなく「息子に孫に譲ってあげるように、皆様が創り、和していくのです」と締めくくった。

午前中は(株)関西アーバン銀行の伊藤忠彦特別顧問、純文アソシエイツ(株)の古田英明社長の基調講演。午後は「中国富裕層分析」「NEXT起業家」「アパレル」の三分科会が開催された。「中国富裕層分析分科会」では、富豪をランキングするマスコミ媒体や富裕層向け雑誌を出版する「胡潤百富」の林文杰編集長が講演。富裕層の好むものは時計ではパテックフィリップ、嗜好品は赤ワイン。中国で富裕層が一番多く住んでいるのは北京で、広東・上海と続くことなど興味津々の内容。聴講していた中国で高級イタリアドレス販売を手がける女性幹部は、「データに基づいた講演で参考になった」と話し、

上海和僑会の顧問も「裏付けがある講演で素晴らしい。情報に価値がある」と満足していた。講演後、林編集長に「日本が中国で成功するための最も重要なキーワードは?」と尋ねてみた。「文化に入り込むことが必要。そして、中国50%日本50%で生きてきた、いいパートナーを持つことが必要」と林編集長の横にいた、日本語流暢で日本文化にも精通した男前の若い中国人パートナーを見てにっこり笑った。

朝9時半から始まり16時半終了。7時間に渡る学びを終え、夜は「大交流会」。さまざまな和僑たちの話を聞くことができた。深圳和僑会事務局の松岡美紀さんは、北京で起業し失敗したが、現在、深圳で活躍。「あの時、助けてもらったので、今度は私が助けたら」と、今度では中国で起業する日本人たちを全力で応援している。一方、あるコンサルタント会社社長からは、「傷のなめあいでではなく、自分たちで創り出し生み出していかねばならない」と、今後を思うからこそその厳しい言葉もあった。来年、アジア大会開催地となるシンガポール和僑会の宮川和久理事は、

「人生の目標は世界平和」と熱く語り、同じくシンガポール和僑会の岩田弘志代表理事は「来年のアジア大会では1000人集めます! そうすればマスコミも放っておかない。展示会も実施し、さらに出会える場にした」と意気込む。最後には藤岡会長から岩田代表理事に和僑旗を受け継がれた。

アジア大会を終え、藤岡会長は安堵感と少しの疲労感を感じさせ、「これからも、焦らず信用できる仲間と縁を大切に、つながっていきたく」と語った。そして最後に、「楽しい悪くない」と少年のような笑顔を見せた。今後、ますます多くの日本人たちが中国へ、アジアへ進出する中で、和僑会の存在は大きい。出会い、話し、絆を深め、アジアに世界に日本人が紡ぐビジネスネットワークが広がっていく。



①強くたくましく美しい深圳和僑会事務局の松岡美紀さん ②「チャンスは自分でつかむんだ! 成功は自分でつかむんだ!」と傲をとばす簡井修会長 ③「これからは若い力」と語り、会場内で和僑たちをつなげることに尽力していた上海和僑会顧問の浅地安雄さん ④「和僑が顔を合わせることに価値がある」と語るシンガポール和僑会の宮川和久理事(写真左、右は筆者) ⑤「人がつながっていくことで出来ることがある」と上海和僑会広報の小林純子さん ⑥大会を終え、キュートな笑顔を見せる藤岡久士会長(写真右、左は筆者)